

緊急生産調整推進対策の計画的な推進を図ろう。  
直播栽培等新技術の導入と地域特性を活かした米づくりを進めよう！  
あ、おいしい。

平成 1 1 年度

ロゴ貼り付け

稲作情報

中通り版  
第 4 号  
平成 1 1 年 7 月 1 6 日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島県の米 稲作情報編集会議  
編集：福島県農業試験場

東北地方 1 カ月予報（7 月 9 日仙台管区気象台発表）

7 月 17 日～7 月 23 日：冷たい高気圧に覆われ、太平洋側では晴れる日が多いでしょう。日本海側では、上空の寒気の影響で曇りの日が多いでしょう。平均気温は低い見込みです。

7 月 24 日～8 月 6 日：オホーツク海高気圧の影響で、太平洋側では平年に比べ曇りや雨の日が多く、日本海側では平年同様晴れの日が多いでしょう。平均気温は平年並の見込みです。

生育状況

- 1) 作柄解析試験の生育：草丈は短く、茎数は平年並。幼穂形成始期は、平年より 2 日程度遅いと予想される。
- 2) 現地の生育：草丈は平年並からやや短く、茎数は平年並からやや多い。生育は県北で平年並からやや早く、県中以南は平年並からやや遅れている。

表 1 稲の生育状況（本場作柄解析試験 7 月 13 日調査）

品 種	年 次	5 月 15 日 移植			
		草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢	葉色 (SPAD502)
ひとめ ぼれ	本 年	54.0	635	10.3	35.1
	前 年	59.4	602	10.7	34.2
	平年比・差	89	102	-0.3	-2.3
コシヒ カリ	本 年	56.4	630	10.5	33.0
	前 年	64.8	635	10.7	31.8
	平年比・差	86	97	-0.1	-2.7

表 2 作柄解析試験における幼穂形成始期(月日)

年 次	冷害試験地		本場		
	まい ひめ	初星	初星	ひとめ ぼれ	コシ ヒカリ
本 年	7.11	7.15	7.14	7.16	(7.25)
前 年	7.11	7.15	7.11	7.13	7.23
平年差	+1	0	+2	+2	(+2)

注) ( ) 内の数字は未確定値  
+ は遅いことを示す。

注) 葉色は 7 月 10 日調査。  
移植栽培の技術ポイント

## 葉いもち防除と低温時の深水管理を徹底しよう！

- 1) アメダス資料による葉いもち感染好適条件の推定によると、周期的に感染好適条件及び準感染好適条件が出現している(表 3)。7 月第 4 半旬以降葉いもちが急増すると予想されているので防除に努める(図 1)。葉いもち発生を確認した場合は、7 月第 4 半旬に散布剤(液剤、粉剤)による防除を実施する。降雨が続く場合には、雨間散布を励行する。予防剤(箱処理剤または水面施用剤)を施用した圃場や、航空防除の実施地域でも発生が認められたら、散布剤による追加防除を行う。まだ発生が確認されていない地域でも、発生が認められた場合すぐに防除できる体制をととのえる。
- 2) 穂いもち対象に粒剤を使用する場合は、剤に応じた所定の時期に湛水状態で施用し、4～5 日止水する。
- 3) 日平均気温が 20℃を下回る時は水深 20cm を目標に深水管理を実施し、障害不稔の発生を防止する。
- 4) 土壌中のアンモニア態窒素の残存量が 6 月末以降 1mg/100g 乾土を下回った。葉色は平年よりやや淡い(図 2)。コシヒカリについては、葉色の低下が著しい場合、出穂前 2～5 日に 10a 当たり 1kg の窒素を追肥する。追肥を実施した場合は、併せて葉いもちの防除を行う(表 4)。

技術ポイントの基礎データ等

表 3 葉いもち感染好適条件の出現状況

地 点	7 月											
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
梁川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一船	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
郡小	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
白石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東白川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) : 感染好適 : 準感染好適 : 感染可能  
(病害虫防除所)

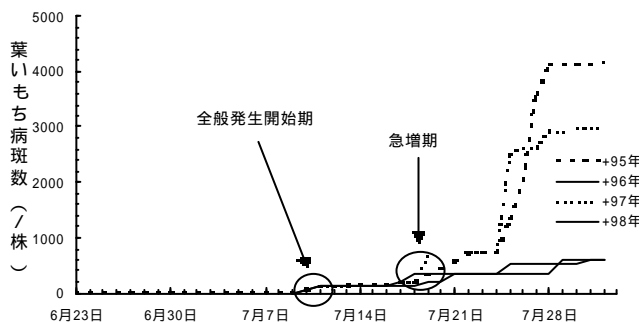


図 1 葉いもち発生シミュレーションモデル BLASTL による病勢進展予測(7 月 10 日現在、郡山市)  
注) 7 月 11 日以降に 95 年から 98 年の気象を合成した  
現在、葉いもち病勢が進展中で、7 月第 3 半旬～第 4 半旬に急激な増加が認められる。  
葉いもち防除適期は 7 月第 4 半旬と予想される

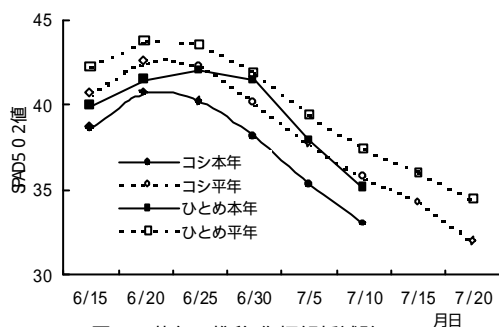


図2 葉色の推移(作柄解析試験)

表4 コシヒカリの追肥の目安(幼穂形成期)

地 域	目標籾数 (万粒/㎡)	幼穂形成期の診断基準値		
		草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (カラ-スケール)
県北	2.9~3.1	70	650~750	2.5~3.0
県南・県中	3.1~3.2	65	650~750	3.0~3.5

幼穂形成期の生育が上記の範囲にあれば出穂前15日に10a当たり2kgの追肥が可能。  
葉色等の低下により籾数が不足すると予想される場合は、出穂前25日に10a当たり1kgの追肥を行う。  
(平成2年度指稲作導指針より)

## 直播栽培の技術ポイント

生育は順調で茎数がやや多い。倒伏防止のためのほ場の固化と葉いもちの防除に努めよう！

### A 湛水直播

#### 1) 生育の状況

場内作柄解析試験の生育：草丈は平年並からやや短く、茎数はやや多い。幼穂形成始期は、前年並とみられる。  
現地における生育：草丈は平年並からやや短く、茎数は平年並からやや多く、一部茎数過剰のほ場が見られる。  
葉色はほぼ平年並である。

#### 2) 当面の技術対策

- (1) 幼穂形成期前まで強い中干しを継続する。特に、播種深度が浅く根が土壌表面に露出している場合、草丈が長い場合、苗立ち数が多い場合は、ほ場全面に亀裂が入る強い中干しを行うとともに、その後もほ場の固さを保ちながら間断灌漑を実施する。
- (2) 移植稲と同様に葉いもち防除を徹底する。
- (3) 幼穂形成期を確認した後、移植の生育診断に準じて追肥を施用する。ただし、ほ場が軟弱な場合や播種深度が浅くて株元が安定しないほ場では、追肥を控える。
- (4) 前年多発したほ場や生育の遅れているほ場ではイネツトムシの防除を実施する

### B 乾田直播

#### 1) 生育の状況

場内作柄解析試験の生育：草丈は平年並からやや短く、茎数は多い。移植との生育差は7日程度である。  
現地における生育：草丈は平年並からやや短く、茎数は概ね平年並。生育は平年並からやや遅れている。

#### 2) 当面の技術対策

- (1) 間断灌漑を継続し、中干しは行わない。
- (2) 幼穂形成期を確認したら、葉いもち防除と併せて10a当たり2kgの窒素を追肥する。
- (3) いもち病、イネツトムシ防除については、湛水直播栽培と同様である。

## 技術ポイントの基礎データ等

表5 湛水直播稲の生育状況(本場作柄解析試験)

品種	年次	播種日	調査日	草丈	茎数	葉数	葉色	幼穂形成
		(月日)	(月日)	(cm)	(本/㎡)	(葉)	(SPAD)	始期(月日)
ひとめぼれ	99年	5. 7	7.13	48.6	800	9.8	39.1	(7.23)
	98年	5. 8	7.14	57.5	607	9.6	34.9	7.23
	97年	5. 9	7.16	51.8	501	-	34.8	7.24
	96年	5.10	7.15	44.6	752	9.7	41.4	7.24
コシヒカリ	99年	5. 7	7.13	50.5	647	9.6	35.9	(7.29)
	98年	5. 8	7.14	61.2	820	9.2	31.8	7.30
	97年	5. 9	7.16	54.4	440	11.0	34.7	7.29
	96年	5.10	7.15	44.4	742	10.0	38.2	7.28

注) ( )内の数字は未確定値

## 麦・大豆栽培の技術ポイント

- 1) 大豆の追肥 5~7葉期の最終培土前にLPコート70号による追肥を行うか、開花期~開花後10日頃までに硫酸または尿素で追肥を行う。追肥量は、窒素成分で0.6kg/aである。開花期追肥の場合は、全面施用すると葉焼けを起こすため、株元施肥とする。
- 2) 中耕培土 雑草防除・倒伏防止、湿害軽減のために中耕培土を行う。開花期以降の培土は根を傷めて収量を低下させるため、行わない。
- 3) 除草剤の施用 晩播無培土栽培では雑草防止のため、必ず茎葉処理剤を施用する。ただし広葉雑草には効果がないので注意する。

表6 乾田直播稲の生育状況(本場作期試験)

品種	年次	播種日	調査日	草丈	茎数	幼穂形成
		(月日)	(月日)	(cm)	(本/㎡)	始期(月日)
ひとめぼれ	99年	4.23	7.13	43.7	565	(7.23)
	98年	4.22	7.14	44.5	392	7.23
	97年	4.23	7.14	55.6	629	7.27
	96年	4.25	7.18	44.2	400	7.27
コシヒカリ	99年	4.23	7.13	47.9	735	(7.28)
	98年	4.22	7.14	55.7	495	7.29
	97年	4.23	7.14	60.0	507	7.28
	96年	4.25	7.18	57.5	702	7.28

注) ( )内の数字は未確定値

